

連載

株式評論家 山本伸一の

兜町スタンダード

決算シーズン、大型連休の備えは万全？



相場は新年度入りから指数下押しを切っ掛けに調整色を強め、日米の金融政策で期待された追加金融緩和の後退とともに上値の重さが目立ってきた。

先行き不透明感の残るなか、米国市場が決算発表シーズンに突入。国内も2月期決算が巡り、今後は集計の進む3月期決算の発表シーズンを迎える。足元では前回コラムでも紹介していた「業績変化」を軸とする観測報道、予想修正などに着目した材料物色を集めているが、昨年からの相場浮上で次期の業績変化期待を過度に織り込んでいる銘柄もあり、決算シーズンが始まれば事前の「決算警戒売り」や開示後の「決算売り」も避けられないのではないか。

さらに、月末からは大型連休も控える。やはり甦るのは「欧州信用危機」に飲み込まれた1昨年、そして「ギリシャ問題」に対する警戒感が高まった昨年の記憶。連休期間中の外部要因軟化、不測の事態にも備えておくべきだろう。

そこで弊社では「空売り」をテーマとする「厳選5銘柄付き市況分析レポート」を緊急発売することにした。「売りスタンス」が個人投資家からあまり歓迎されないことは承知しているが、資産を守るためには「空売り戦略」も必要不可欠。昨年と同テーマを用いたが、市況分析通りの調整が訪れ、分析結果と注目銘柄のパフォーマンスを高く評価していただいた。このレポートに興味を持たれた方は、弊社に直接問い合わせしてほしい。